

### ○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで、大項目、まちづくりについて、中身的には武雄北方インター工業団地について、整備新幹線についてなどであります。

教育についてのほうは、ICT教育について、それと、不登校対策について、また、土曜日等開校についてとあげさせていただいております。よろしくお願ひします。

質問に入る前にですね、今年の夏も暑うございまして、ちょっと、まあ1つここに御紹介をさせていただきたいなと思うのが、今回ですね、114年の創立以来初めて、甲子園に出場されました有田工業高校、野球部の皆さんが頑張られまして、その中に——ベンチ入りのメンバーの皆さんの中にですね、武雄市から古川君、浦郷君といった選手がベンチ入りをして試合にも出て、大変活躍されたことが、皆さん記憶に新しいんじゃないかと思っております。大垣日大の逆転勝利は非常にすばらしいものがあつたんじゃないかなと思っております。

それとまた——もう一つ、御紹介させていただきたいのが、前回の一般質問でも御紹介しましたが、中尾太三さん。彼がBMXの世界選手権に出場されまして、こちらも優秀な成績をおさめられたということで、非常に喜ばしいことじゃないかなと思っております。

皆さん御存じかと思ひますけど、2020年の東京オリンピックの開催が決定したことでございます。この東京オリンピックに、この先ほどのBMX、中尾さんが出場されましたBMXもですね、オリンピックの正式競技の一つということで、非常に注目度が高いんじゃないかなと個人的に思っておるところでございます。これがですね、中尾さんが出場されました世界選手権の模様のお会場図でございます。もう少し角度をずらしてればよかったんですけど、手前のほうの写ってないんですけど、手前のほうのスタンドもですね、結構な人が入っております、なかなかの盛り上がりを見せているんじゃないかなと。

これがまあ、スタート台のところになるんですけど。これは、UCIのホームページですね。その世界選手権の——ホームページと。これが、そのBMXの会場、コースの全体図の写眞になります。

まず、最初に市長にお伺ひしますけれども、先ほどの有田工業高校の甲子園での活躍、まあ武雄市——武内町の選手が2人活躍されました。それとまあ、中尾選手の世界選手権の活躍も踏まえて、市長に見解を求めたいと思ひます。

〔市長「なんの見解ですか、何の見解。なんて」〕

### ○議長（杉原豊喜君）

武雄から行きよる選手が全国大会に出場されたと、それに対してどういふ見解をお持ちかと。樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりですね、こう市民から——そういう全国で活躍をする、あるいは世界にね、こう頑張っている、まあ中尾選手みたいに世界で頑張っているということだと、やっぱりこう自分のある意味、市民の皆さんたちは私に限らず、自分の分身というかね——そういう活躍をされたってということだと思えるんですね。だから応援にやっぱり人一倍、やっぱりこう力がこう入ったということだと思えますので、これからやっぱりこうオリンピックが正式に日本でっていうふうに決まりましたので、まあ新幹線も人材育成もそうなんですけど、やっぱりオリンピックを見据えてね——そういう環境整備をする必要があるだろうと。

古川知事が「2040年佐賀オリンピック」とおっしゃったことについては僕も度肝を抜かれましたけれども、まあでもそういうね、こう夢があって僕はしかるべきだと、いいことだと思いますので、ぜひこう明るくね、我々大人の世代が、あるいは政治行政にいる人間が、そういう環境を整えていくということは大事だと思いますので、ぜひ上田雄一議員が先頭に走ってね、我々もついていきたいなと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

まあ本当にですね、武雄の選手の活躍というのは本当にうれしいものでございまして、これが愛国心の一つになるんじゃないかなと思っておるところでございます。

それではですね、質問に入っていきたいと思っておりますけれども、まず最初に、武雄北方インター工業団地についてでございます。これはちょっと——県のホームページから抜粋しておりますけれども、県内4カ所、新産業集積エリアということで計画がなされておまして——実際——分譲が開始になってるのは、この武雄と唐津の一部ということで伺っております。あとは、鳥栖と有田に計画があるわけですが、武雄の場所がここですね。武雄北方インターから降りたこの場所。これがまあ上空からの写真になるんですけど、この赤い線で囲まれてる部分が、18.4ha。この18.4haの工業団地——平成23年の10月に分譲開始となっておりますので、すでにもう2年近くが経とうとしておるところでございますけど、今のこの工業団地、この企業誘致の今、状況というか、現状を確認させていただきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

状況を申すまでに、今の誘致状況をお話ししたいと思います。実は現在交渉中の1社があります。これはちょっと相手がある話しですので社名はちょっと伏せたいと思っておりますけれども、今実は最終調整中であります。北川理事を中心として最終調整であって、武雄北方インター工業団地の18.4haってありますけれども、そのうちの17%の3haを購入をされる予定となっております。10月上旬までに進出協定を結ぶ運びとなっております。いずれにしても残

りあと 15ha ありますので、これは県と協働して、企業誘致活動を行っていきたいと思います。

実際ですね、きょうのニュース速報でも出てきましたけれども、大企業の収益が伸びています。ですので、それと武雄市が今いろんなところに行っても、例えば、病院の問題であるとか、例えば図書館の話であるとか、基本的にここは有言実行のとこだということを言われていますので、それが誘致に実際かなり具体的に踏み込んで話が来ている状況にあります。ですので、そういう結果が今回の 1 社の案件だと思っておりますので、これをさらにね、これを広げていきたいなというように思っております。非常にいいニュースだと思っておりますし、これによってまた雇用が生まれるということにもなりますし、また 10 月ですね、10 月の上旬。ちょうど 2 年——えっ、何年かな、2 年かかったんですかね。かかることになりましてけれども、本当にいい時期にこういうニュースがこの場でね、言えることになったっていうのは、本当に市民の皆さんたちのおかげだと思いますし、この間、議会の皆さんたちもさまざまな情報提供を、上田議員を初めとして、してくださりましたので、それもあわせてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

#### ○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

10 月上旬ぐらいのめどで、3ha 交渉中の 1 社があるということですね。はい、非常にうれしいことですね。

県のホームページを見ればですね、この工業団地の紹介もされてるんですけど、なかなかその県のホームページに載っているのがちょっと小さくて見づらいんですけど、工業用地の面積が 18.4ha、分譲済面積がゼロって。分譲残が 18.4 で、立地企業数ゼロっていうのが、これが載ってるわけですよ。ここの部分ですね。これがもう非常にやっぱ寂しいなと思って、何とかならんもんかなと思ってたら、その 3ha、話がまとまりそうだということですね。非常に喜ばしいことだと思います。ちょっといろいろ世話をしてですね、大丈夫とかなと思いつつながらおったところですけど、この県のホームページを見るところによればですね、ちょっとここ小さくて見づらいんですけど、新産業集積エリアの紹介ちゅうところですね、まず雇用創出や経済効果の大きな大企業。また、シンクロトン光関連産業、新エネルギー産業などの重点誘致産業関連企業の立地を推進しと、地域経済の活性化や雇用機会の創出を図るため、中長期的な視野に立って、新産業集積エリアの整備を行いますとなっておりますけれども、重点誘致産業関連企業がですね。

すいません、私せっかちなもんですから、2 年経って、今、今回初めてこの 3ha というのが表出てきましたんで、あれですけど、これどこまでこの縛りというか——があるのかなというのが、ちょっと気になるころなんですよ。その 3ha の部分が例えば、どっかに該当するとか、もうこれは別にここは、一応目標としてはとか、イメージとしてこういうところ

をというのがあるのかどうなのか。これ以外でも全然——雇用創出といえば、もうはっきり言えば、何でも、いろんな雇用があると思いますから、経済効果って考えれば、その大きな大企業ってどこまでのことを指すのかって、いまいちょうわからんとですけど。ここら辺の縛りとかってというのは大体どうなってるのか、ちょっと確認します。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

縛りはありません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

縛りなかない、ここ書かんぎよかとけですね、ホームページに。（発言する者あり）いろいろまあ載せるけん、うちは対象入らんねーとかってというような考えを持たれるところも、ひよっとするぎあるかもわからんけんですね。一応——いろいろこういう企業がお越しになれば、それはもう言うことはないんですけど、とにかく2年経って、まだ今んところ決まってい、10月には決まりそうというのを踏まえればですね、いろんな間口を広げて、企業誘致にあたるべきじゃないかなと思ってます。

市民の方から私がちょっと、いただいたのに、物流センターとかどがんやというような話もいただいたとですよ。何で物流センターって言ったら、武雄の荷物の集荷——なんちゅうかな、集荷、集めて配るほう、なんちゅうんですかね、集配、集配が拠点が武雄になかもんねというような話をいただいて、それもぜひ一つの方策の——企業誘致の紹介をする部分の一つにはなるんじゃないかなと思っておりまして、そこも一つぜひ考えていただければなと思っております。

でですね、その工業団地の別の視点でいけばちょっと今回こう——ソフトバンクホークスの2軍、雁の巣球場の機能を移転というのが報道に載っております。

グラウンド、球場ですね。この、グラウンドというのは多分球場を指すんだと思うんですけど、サブグラウンド、サブ球場ですね。それから室内練習場とか寮とかクラブハウスなどというようなところが、記事には載っておるんですけど、ここの募集条件のところをですね、まあちょっと拾い上げてみれば、応募条件としては4万から6万㎡の更地。高速道路インターチェンジから20分以内、連続して20年以上の使用可能、ヤフオクドームから車で1時間以内、土地は賃貸契約、建物は球団が建設しているところが、これが新聞の記事に載っておりました。

実際ですね、私もいろいろ調べたところですね、このホークスの本拠地、誘致に意欲を示す自治体というのが、この時点でももうすでに10超えとるとですよ。（「もう今、二十幾つ

よ」と呼ぶ者あり)

つい先日もですね、嬉野も名乗りを上げるということで——私もちょっと独自でいろいろ調べよったところですね、誘致にもう名乗りを上げているのがこんだけあるとですよ。(「25か」と呼ぶ者あり)福岡県もかなりいろんなところが手をあげて、熊本もあげて、大分あげて、しまいには長崎まであげて、雲仙市ですね。(「よし、手ばあげよか」と呼ぶ者あり)すでに20を越す自治体が手をあげています。ここに載っているのでも22です。これ以上にもですね、ホームページ等でもいろいろあるんですけど、ちょっとツイッターレベルの情報とか、そういったのはちょっと省いています。あくまでもすでに確定しているような段階のところ——ちょっとピックアップすると22ぐらいですかね、あがっているところなんです。まだこれ以外にもですね、きょうでもまたいろんな動きがあつてるかもわかりませんので、まだまだ増える可能性があると思うんですけど、これですね——これソフトバンクのホームページです。ちょっと小さいんで見づらいんであれですけど、何やったかな、ファーム——ちょっとよう見えんですね。はい、これちょっと大きくしますと、それ、要はファームの誘致募集の要項です。ここに書いてあることも結局おおむね、先ほど言いましたように、4万平米から6万平米、可能な限り分割がされていない土地ということで、これ北方工業団地に当てはめればですね、私はこれはもう十分クリアしてると思うんですよ。

高速道路の最寄りインターからおおむね20分圏内というのも、これも北方インターからクリアしてますよね。鉄道の最寄り駅からの交通手段が確保できることってなって、ここがですね、いろいろ、その民間のバスさんとかバス運営会社さんとかとも、いろいろ協議等が必要になってくるかなと思いますけど、そこが調整をつきさえすれば、クリアできるはずなんですよ。

造成済み、または粗造成済みの平たんな更地ってこれも十分クリアですよ。15年秋をめどとして竣工し、その後の数カ月の使用期間を経た後、2016年シーズンからの本格使用が見込まれることというのが、これは武雄市だけでなく、たぶん県も了承してもらわないとだめなんじゃないかなと思うんですけど、県と武雄市がオーケーって言えば、これもクリアできるだろうと。この20年以上継続してというのも同じことですよね。だと思っんですよ。賃貸契約が可能、これも県と武雄市との協議が必要になるかと思うんですけど、最後の土地の所在する自治体というのも、提案者の要件というのがそうですね、これもいいかなと思うんですけど、条件的にはですね、土地を賃貸して建物は球団側で建てる。私はですね、これちょっと——そっからの交渉になると思うんですよ。二十数自治体があげてる中での勝ちを目指すべきところになれば、さまざまないろんな条件がこれから小さいのが出てくるかなと思うんですけど、武雄市としては、おいしゅうなかとかなっていうところも……

〔市長「いや、おいしくありません」〕

ちょっと感じる部分があるんですよ。

青少年健全育成にも十分寄与するでしょうし、スポーツ振興も寄与する。何より地域ブランド力の向上というのが見込めて、若鷹を育てる町、武雄ってというような感じで、なかなかこう武雄市としても、非常にメリットがあるんじゃないかなと思うんですけど、これについて、市長の見解を伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず答弁に入ります前に、この先ほどの誘致が、もうほぼ決まっています、実は。決まっています、今最終調整中になってるんですけども、物流、流通です、業種は物流、流通。それで私の希望としては、これ数年かかると思うんですけども、100人以上の雇用だということでありまして。これは段階的になっていくので、恐らく数年後には100人前後の市民の雇用が見込まれるということになります。

いずれにしても、10月上旬、早ければまあ9月の下旬になろうかと思うんですけども、決まり次第会見をして、議会、市民の皆さんたちに御披露を申し上げたいと思っております。

ソフトバンクのファームの誘致、おいしくありません。おいしくありません。まずですね、これで言うと、何が一番おいしくなくて言うんですけど、1つは、これ専用のグラウンドになるんですよ。これが例えば市民の皆さんと一緒にこう使えるということであればですね、それは非常にありがたい。これ実はこの誘致の話がある前に、私のところには、ソフトバンクと非常に近いっていうのはあって、いろんなところから話があって、さまざま——実はですね、事務方、私レベルで協議をしてきたんですよ。そのときに、最後の一線がそこなんです。ですので、やっぱりですね、どこの場所にしてでも、やっぱり市民が主体的に活用できないっていうのは、ちょっと、少なくとも私が預かる市政の方向性からすると、そこはちょっとずれてると思っております。それで議会の皆さんたちも多分そうだと思うんですよ。それで若鷹を育てる町って、結構かと思えます。ですがうちは鷹匠がいますので、そっちを育てていきたいなと思っておりますし、もちろん私もホークスファンですので、そういう意味での応援はぜひしていきたいと思っております。ですので青少年の健全育成、スポーツ振興についてはね、ちょっとこれは、多分そぐわないんじゃないかなと。いや、一緒に使えれば話は別ですよ。ファームが練習してないときに、使えるんだったらね、いいんですけど、少なくとも私どもには、そういったことは聞いてないんですよ。それと、それと並行して、これ賃貸であれば市が土地代の8億円を負担しなきゃいけないんですよ。これ果たして、議会に僕が通せるかといったら多分ね、議会は反対すると思えます、これ。それよりも、あんたこれは工業団地でつくったとやろうもんで、苦労して。であれば、先ほど私が申し上げたような企業をまず呼んできなさいというのは、多分議会、議長を初めとして、そういう多分御指摘があろうかと思うんですね。私が議員だったら、そういう指摘をします。それと——

ただね、そうは言っても、あれなんですね。これもしですね、もしですよ、仮にホークスが市民と併用して使いますということであればですね、この工業団地というのは、一つありだったかなと思います。それは本心から。この条件にかなり適合してますもんね。でもね、きょうの西日本新聞でしたっけ。もう 24 自治体、あるいは 26……（「29」と呼ぶ者あり）29 自治体って、無理です。私がもしね、ソフトバンクの経営者だったら福岡にしますよ。いや、だって——いや、私がホークスの経営者だったらですよ。ちょっと——うん、なんか——それがね、手をあげて、なんでニュースになるんだらうって。ニュースになるんだったら僕もここで手をあげようかなと思いますけど、そういうことはしません。やっぱり、責任ある、行政がある立場としては、ほかの自治体が手をあげるっていうのは、それはまあ自由だと思うんですけども、私はもっと地道なね、例えば企業誘致とか、そういうスポーツの振興っていうのは図ってまいりたいと、私自身はそのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

若鷹を育てる——鷹匠はもう育とうでしょう。

〔市長「いや、まだ大学生やもん」〕

もう十分、有名なお嬢さんじゃないかなと思うんですけど。

まあ、この 18.4ha の内の使い方だとは思うんですよね、3ha が、まあちょっとどこの辺に 3ha が入ってくるのかっていうのはわかりませんが、そのソフトバンクのその球場、専用球場になって市民の方が使えないと。ただ、それがホークスが全部埋まるわけじゃないんですよ、ここが。（発言する者あり）しかも——ちょっと私の考えですよ。市民の方が使えないって言うてもですね、建物はホークスが建てます。そこをホークスが 2 軍が使用する。私がホークスの経営者だったら、ホークス、福岡よりもよその自治体については考えるとですよ、結局福岡の市民の人たちは、ヤフオクドームまでしょっちゅう見に行ける人たちがたくさんおるわけで、そこでファームの試合ってなれば、私は若干距離があっても地方にあってもいいんじゃないかなという感覚も持ってるのは持ってるんですよ。

今回条件にあがってるのが、4 から 6ha という土地というのがあがってますけど、4 から 6ha って、さっきのグラウンドだったりサブグラウンドだったりとかってずっと条件合わせたら、これ本当に 6ha で足つとかなってというような感覚は確かに私、ちょっと感じる部分があるんですよ。だからそれを踏まえたとして、例えば 6ha が、例えばそのホークス専用で建物が建つと。じゃあその周辺に、こういうことを考えられんかなと思うわけですよ。これは佐賀の総合グラウンドの陸上トラックですね。これが佐賀の総合体育館。これはみどりの森県営球場。こういう感じで県の施設、スポーツ施設というのが、こういういろんな競技があるのが、これ全部やっぱ県の東部地区ばかりにあるわけですよ。だからそのあいた部

分の——あいた部分ちゅうとおかしいですね。そのホークスの誘致と踏まえてですね、西部地区のスポーツの拠点づくりというのを、例えば県と協働でっていうか、そういう考えを持つには、またいい話と、こういうコラボできんかなと思うんですけど、そこら辺についてお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

半分、議員と全く同じです。これは、ホークスのファームと連動はしません。なぜならば、もし工業団地のところにファームの球場ができたとする、こういう場所っていうのはないんですよ、その周りには。基本的には農振のかかっているところとか、地元合意が恐らく北方のところ、結構あそこ大崎のそこは集積してますので、それをスポーツ施設っていうことになると、なかなかやっぱしんどいものがあります。

新武雄病院のようなキャパだったらね、広さだったらぎりぎり。あれでも、もう少し広がったら多分、無理だったんですよ。それぐらい、今用地取得っていうのはやっぱ難しいんですよ。ですので、そういった観点からすると、ホークスと関連するのは、ちょっとここは議員と見解が違いますけど、ただこの部分だけ取り上げると全く同感です。要するに、県の東部のほうにどんどん今集積が進んで、西部にはないじゃないですか。これは、市が単体でやるにしても、なかなか今財政上厳しいということであれば、これ県にばかりお願いするんじゃないかと、市もお金出すから県も一緒にのってくれませんかということ、私言いたいと思います。その上で、今度オリンピックを見据えて、いろんな例えば、合宿所とかの要請も多分来ると思うんですよ、競技施設とか、例えば体育館とか。ですので、これは県の知事のね、お力をぜひここは借りたいというように思っておりますし、そういう意味ではこれは賛成です。ですので、工業団地についても、第一はね、やっぱり企業を僕は誘致すべきだと思うんです、それは第一は。しかし、やっぱり市民の皆さま方、議会の皆さま方が、これでいいということであればね、こちらの話は議論としてはあり得ると。こちらというのはどういうことかっていうと、スポーツの西部地区の拠点づくりを工業団地を中心として行うっていうのは、それは議論としてはあり得るというふうに私自身はそのように思っています。ですので、企業もさっき業種のこと申し上げましたし、それはいろんな縛りをかけないでね、いろんな市民の価値が上がる、市民にとって何がいいかということを含めて、全体的な選択肢の中から判断をして、議会にちゃんとお諮りをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。最終的には、私こっち——あれなんですけど——これが実現すればですね、



今例えばサガン鳥栖のサッカーの試合でも、鳥栖、佐賀、武雄って、県で3カ所のできるわけですよ。野球もそうですよ、野球もそう。みどりの森でしかやってないのを西部地区でやろうよと。総合体育館もそうです。ぜひこれを実現していただきたいなと思っております。それではですね、ちょっとまあホークスのほうは残念ですけど、整備新幹線のほうにちょっと入りたいと思います。

これはですね、先月新幹線活用プロジェクトの総会が行われました。これがまあちょっとその総会の模様なんですけど、そこでですね、委員さんからもやっぱりこのフル規格の待望論というのがたくさん出ました。この新幹線活用プロジェクトの会長である——これは樋渡市長ですけど、市長もそこで話をいろいろお伺いされたんじゃないかなと思っておりますけれども、新幹線の現状がですね、この新鳥栖から武雄温泉までが、フリーゲージによる事業認可になっておるところでございますけども、そこで出てる話が、活用プロジェクトでも出たのが、このフル規格待望論というのがかなり出ておりました。私も毎度毎度ここで質問をさせていただいておるわけですけど、これがですね、長崎新幹線西九州ルートへのフル規格化への協議を求める意見書というのが、これ嬉野市議会のほうから出ております。内容はちょっと御紹介を省きますけど。今回ですね、県内の各議会で同様の動きがもうちょこちょこあるんですよ。私が把握している中でも、もう5つあります。5つの議会で同様の動きがあり、県内全域からフル規格化への意見書を議会が出そうよというところから出ておまして、武雄市でも同様の動きが必要じゃないかなと思ってます。武雄市においては新幹線特別委員会があるわけですから、特別委員会の皆さんのぜひ、そちらに期待をしたいところでございますけど、今の段階でやっぱりこういう意見書をやっぱ——まず、やっぱ私は必要だなと思うんですよ。それ以外にもなんかどういふアクションがやっぱ必要なのかなというのが、ちょっと市長にお伺いしたいなと思ってますけど。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言するものあり）

#### ○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとあの、私語を慎んでいただけないでしょうか。

要するにですね、上田議員がおっしゃっているとおりなんですよね。私から、ちょっと僭越ながらのお願いは、ぜひ議会で、今議会において、このような意見書を取りまとめたいただきたいということが、まず第一です。

それと、私自身で動けるのは、今おかげさまで自民党政権の中枢にいる方々と非常に近い関係にあります。民主党とははるかに遠かったんですけど——近い関係にあるんで、例えば新幹線の整備の最高責任者は町村信孝さんなんですけど、この前これ、議長さんと一緒にお会いしたときも、これはぜひ必要だねということ、フル規格については必要だねっていうことを、おっしゃいましたよね、はい。おっしゃいましたし、さまざま——佐賀の国会議員

が役に立たないって言っているわけじゃないですよ。役に立たないって言ってるんですけども——言っていないですよ。(笑い声) 言っていないですけど、それと並行して、やはりそう意志決定権者に働きかけないと、今までそれが足りなかったんじゃないかって。まあ民主党政権っていうのはあったんでね、ちょっとそれが壁になってたんですけども、今、だから佐賀県の国会議員の皆さんたちに働きかけるのと同時に、政権中枢ですよ、与党の中枢の方に、どんどん、今働きかけています。

それともう一つ大事なのは、やっぱり新幹線——ごめんなさい、オリンピックだと思うんですよ。東京オリンピックのときに、東京オリンピックがほぼできるのと同時に、東海道新幹線ができたということで、実は東京にお越しの海外の方々が、どこに行ったかっていうと、それで東海道新幹線を使って、京都、あるいは大阪に行かれたっていうのを僕はテレビで見ました。となると、これから9年後の新幹線っていうふうになっていますけれども、可能な限り前倒しをして、全線でなくてもやはり部分開業でも僕は間に合わせるべきだと思うんですね。そうしないと、これ本当に中途半端になります、中途半端に。オリンピックになると、経済効果が3兆円っていうふうに出てるじゃないですか。もういろんなところは5兆円とかっていう話も出てるんですよ。その、人・物・金を新幹線で私どもの九州の西部に呼び込むということが絶対必要だと思うんですよ。その新幹線は、長野市オリンピックのときもそうだったじゃないですか。整備新幹線だったのがフルに変わったじゃないですか。ですのでこの東京オリンピックっていうのは、単にその国威発揚だけじゃなくて、交通網整備にとって最後の、私はチャンスと、大きなチャンスだと思ってますので、この機を捉えたいと思っています。ですので今度の新幹線というのは、単に西九州ルートとか長崎ルートじゃなくて、オリンピック新幹線だということだと思っておりますので、ぜひそういうなんちゅうんですか、議論というか世論を出していきたいなど、このように思っております。

ちょっと私から最後にしますけれども、そうは言っても、県の負担が物すごくこれ高くなるんですよ。県が今払える余裕っていうのは、ちょっとどうかっていうのは、それは別にしても、やっぱり国の負担を増やさないとだめだと思うんですよ、国の負担を。ですので、それもあわせて申し上げていきたいなというように思ってます。古川知事の下で頑張っていきたいと思えます。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

きょう私実は——一般質問をするたんびにですね、本家に寄って、うちの上田家の——墓参りちゅうか、毎回本家に行ってお参りをしてここに上がるのが、私の毎回日課なんですよ。きょうも朝寄ってきて、本家のおばちゃんに言われたのが、1964年の東京オリンピック、じいちゃんもばあちゃんも行っとんさあとよっていうのを初めて聞いてですね、結局は、東

京でオリンピックがあるんですけど、結局はみんながそこに見に行くわけですよ。しかも今報道を見ると、東京から名古屋まで何、リニア何とかというのが40分で結ばれるって、それが前倒しをするとか何とかって話でしょ。東京ばかりそがんやなしね、東京オリンピックのために地方の新幹線を整備するというのが、私は一つのこれはやっぱ方法だと思いますんで、今の流れからいけば、フルになろうが、フリーゲージになろうが、今の事業認可からいけば2年ぐらい間に合わんわけですよ。最低でもまずそこは前倒しをしてもらって、なおかつフリーゲージじゃなくて、フル規格でというようなアクションを起こすべきじゃないかなというのが、ちょっと私の期待をしているところでございます。これはまあ、私も頑張っていきたいですけど、市長も頑張ってくださいなと思ってます。

〔市長「はい。頑張ります」〕

でですね、新幹線の話が、またちょっと別の視点からなんですけど、今議会でこの9月議会で、県内で5つの議会、私が把握しているだけで今5つの議会が意見書を出されます、こうやって。ある——これ武雄市選出じゃないですけど県議さんとちょっと話をしたときがあったんですよ。もう「フルに話ば早よ持って行ってよ」って言うて私もお願いしたら「フルに、ほんなごとあんたたちそがん思うとうとね」と言われたわけですか。正直もう、ちょっと、むかってきて、「どこでもフルって言いようばい」って言うて、言いよう。 「フルにすんない、とまらんばん、あんたたちんとつけ」っていうごた言い方ばするわけです。むかってきてですね。（発言する者あり）ちょっとですね、ちょっとせっかちなんですけど、話早すぎって言うこと言われる可能性は十二分に承知しておりますけど、これがですね九州新幹線の鹿児島ルートの方ですね。これちょっと小さいんで見づらいんで、博多から鹿児島中央、ちょっと出してみました。まあ博多、新鳥栖、こっからは長崎ルートになれば、ここが長崎になって武雄温泉がどっかに入ってくるわけですよ。これちょっと話が、全然まだ早すぎるって言われるとは重々承知してはますけど、今一生懸命、フル規格をフル規格をって言いよる以上は、どういうふうになるのかをね、ある程度想定をせんといかんじゃないかなと思っての、ちょっと、話です。博多から出発したのが、みずほだと熊本にとまって鹿児島中央ですよ。さくらは、新鳥栖、久留米を通過して——とまって筑後船小屋から、ここをずっととまって行くのと、とまらないのと、いろいろあります。つばめというのは、まあ各駅停車で、おおむね博多から出るのは熊本どまりなんですけど、武雄温泉駅の位置づけっていうのが、どういう位置づけを考えられてるのかなと思うわけですよ。

この新幹線のダイヤをちょっと調べてみました。鹿児島中央駅、時刻表です。もう見れなくて結構です、博多駅の時刻表を出しました。今、鹿児島中央駅から発車しているみずほが5本、さくら27本、つばめ7本。つばめ7本というのは、博多駅もあります——あ、こっちから博多駅ばかりかな——ですね。博多駅からは、みずほが5本、さくら33本、つばめが28本、博多駅からのつばめというのは、ほとんど熊本どまりです。このようになっています。

ただこれはあくまでも博多と鹿児島ルートに見直せば、こっちが長崎駅になるというところですね、ちょっと似たごた駅の武雄として想定を——どこがよかとか、想定でくつとかなと思ったら、ちょっと考えてみました。するとですね、まあやっぱ武雄にとっては、やっぱこっちを大事にせんばいかんと思うとですよ。この佐世保。佐世保を抱えてると思ってですね、この新幹線事業ちゅうのは取り組んでいかんといかんと武雄はですね、思っておるところですけど、じゃあここで似たような駅となったときに、調べたのがこの久留米駅が久大線がここに入っとうわけですよ。だから今位置づけ的に一番近いのは、例えば筑後船小屋とか大牟田、玉名とかっていうよりも、久留米が一番イメージとしては近くなるんじゃないかなと思うんですけど、その久留米駅をちょっと調べてみました、時刻表を。久留米の上り、久留米の下りですね。久留米で上り、みずほは当然ノンストップですからとまりません。ただ、さくらが25本、つばめ28本が上りでとまります。下りは、みずほはゼロです。さくらは24本、つばめ28本。こう考えるとですね、やっぱ武雄は、せめてこう久留米並にという位置づけで運動を考えていかんばいかんて、そういう位置づけでいいのか、そこら辺、市長の認識をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は非常に実は、性格は穏やかなんですけど、言葉は辛口なんでそれはお許しいただきたいんですけど、今のままだったら武雄のポテンシャル、能力というのは筑後船小屋以下です。それはやっぱりですね、吸引力がないですもん。しかも、恐らくですね、最初はJRも調子のいいことを言って、武雄温泉、嬉野温泉駅にとまるっていうふうに言っても、絶対にどっちか一つ、あるいはゼロになります。ですので、これは私どもが新幹線プロジェクトでも言ってますけど、とにかく9年後。まあ前倒しに多分なると思っていますので、オリンピックまでに街の魅力を高めなきゃいけないということなんです。街の魅力が高まって、交流人口とか定住人口が増えれば、おのずと新幹線っていうのは結果としてとまるようになるんです。そうなったときに、たぶん久留米と同じような比較に僕はなると思うんですね。単に佐世保とつながってるからといって久留米と同じ位置にあるっていうのは、それは久留米に対して僕は失礼だと思います。ですので、その間我々が一生懸命努力をして、血のにじむような努力をして、まちづくり、人づくりをして、だから結果としてね、もう新幹線が、じゃあとまりましようっていうふうになっていくと。それは名古屋がそうじゃないですか。最初、なんちゅうんですかね、のぞみですか。のぞみが東京からね、できたときに、東京から大阪で、名古屋はとまらないっていう話を一部されたじゃないですか。そしたら名古屋の経済界がめちゃくちゃ奮起して、いろんな、例えばまちづくりとか——あれは万博とかいろいろありましたけれども、それによって、もう今どう言われてるかって、これは前も言いましたけ

れども、もう大阪まで行かんでよかと、もう名古屋往復で十分だっていうところまで、名古屋は頑張ったんですよ。そのときに名古屋の経済界の人に話を聞いたら、死ぬ気になって名古屋の魅力を上げなきゃいけないってことをやっぱりおっしゃるんですよ。その努力を我々はしなきゃいけない。

今、幸いにして病院、武雄の場合はほかの市と比べて、例えば病院がうまくいってます。図書館で、1日7,000人お見えになるときもあります。そしてもう一つ、まあここではまだ言えませんが、第3の矢を放ちます。放って、図書館とか病院が序の口だったと言われるぐらいの第3の矢を放ちます。それによって、街の魅力を上げて、皆さんたちにお越しいただくようなね、ところにしたいと。そのためには、もう政争はだめだと思います。もうセイソウは掃除だけでけっこうです。(笑い声)ですので、やっぱり一丸となって、足を引っ張るとか後ろ向きの議論ではなくて、前に進んでいこうよというような気運がね、高まれば武雄はおかげさまで注目されてますので、それがほかの都市の努力と比べてみてもね、それは我々の努力のほうが、余計に付加価値が高まっていくというふうに信じていますし、この7年間については、本当にこう、死ぬ気にやってね、やっぱり努力していく必要があるだろうと思っています。そうなったときに初めて、久留米を越したねっていうふうに言ってくださるものと認識をしております。上田議員に期待をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひですね、佐世保のためにもですね、やっぱ武雄が久留米の位置づけにならんばいかんと思うんですけど――あります、はい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、佐世保の政界とか経済界の人とよく話す機会があつて、上田議員と全く同じことをおっしゃってますよね。だから武雄の魅力をもっと高めてほしいと。それで佐世保と武雄と組んで、あの一带をもっと浮揚させていこうということは、常々佐世保の皆さんたちもおっしゃってるので、そういう意味から我々の責任というのはかなり大きいと思っています。ですので、やっぱね、共存共栄しかないと思うんです。あるいは連携しかないと思うんですよ。ですので、そういう意味で言うと、例えばね、フリーゲージを武雄温泉駅から佐世保までっていう選択肢とか可能性だってあるわけですよね。ですので、そういったことも含めてね、具体的に国等に対しては申し上げていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

### ○3番（上田雄一君）〔登壇〕

本当にそうですよ。佐世保のためにもというところで、やっぱ武雄の付加価値も上げながら、武雄のポテンシャルを高めていかんといかんと。

一方ですね、これはですね、松浦鉄道の沿線図です。この辺が平戸ですね——からずっと行って、ここら辺が有田とか伊万里とかっていうところになるんですけど、ちょっとまあ小さくて見づらいんで、ちょっとこの辺を拡大して映しますけど、このMR松浦鉄道ですね、伊万里から有田まで、伊万里から先っていうような感じに出て通ってる私鉄です。私は、これは伊万里とか有田のほうで頑張っていたきたいなと思うところではあるんですけど、このMRをですね、有田から武雄温泉まで、まあ伊万里とか有田の方が頑張ってますね、武雄まで持ってこれれば、今度は伊万里の人たちにとってもプラスになるっちゃなかかなと。新幹線が武雄にとまるというふうになればですね、そこまで——まあこれはちょっと、武雄がどうこう言ってどうなるものかどうかっていうのがちょっとわかりませんが、このMRもですね、伊万里、有田の皆さんとこの辺は頑張っていて、今、有田始発でこう走りますけど、これを武雄始発まで持っていってくると、このMRのポテンシャルもかなり上がるんじゃないかなと思うんですけど、これについてどうでしょうか。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

これも、あれなんですよ、周辺の自治体から、一緒に手をあげてくれないかっていうことも、実は内々言われています。ちょっと他の地域のことは僕はわかりませんが、言う権限もありませんので申し上げますけれども、武雄のことを考えた場合に、このMRができることによって、2つの効果が生まれると思うんですよ。

一つは、有田、伊万里と、さらにやっぱこう心理的にも近くなるっていうこと。それともう一つが、だんだんですね、高齢化がやっぱ進んでいってるじゃないですか。車をやむを得ずして手離さなきゃいけないっていう方々もいらっしゃいます。ですので、そういった観点からすると、これは高齢社会を見据えた上では、この公共運輸機関の充実という意味では、これはぜひあるべき話だと。

それともう一つ追加で言うと、私、MRにしてほしいって聞いたのは、新武雄病院にこれで行きたいって、伊万里とか有田の方々が——っていうので、私患者さんから聞いたんですよ。新武雄病院にちょっと仕事の用事がありましてね、行ったときに「あっ、樋渡市長さん」とかって言われて、「樋渡市長さんにそっくりの方ですね」とか言われて「いや、本物です」というふうに。これはネタなんですけど。それで言われたときに、なかなかちょっと武雄、伊万里から来づらいと。どっからお越しですかって聞いたらですね、その方は蔵宿だったんですよ。蔵宿で——西有田の1個手前の駅ですよ、蔵宿だったんで、どうやって来たかと

いうと、有田で乗りかえる。これ、乗りかえ非常にしんどいと。乗りかえて武雄温泉駅まで来ましたっていうことをおっしゃってたんですね。これが一気に通貫に武雄温泉まで行くと、非常に新武雄病院に来やすくなるし、図書館にも行きやすくなるということをおっしゃいましたので、ああ、こういう効果があるんだなと思いましたので、そういう意味でも、このMRは武雄始発ですよね。まあ、終点という言い方もしてもいいかもしれませんが、これについては、私もぜひそういう機会があったら乗りたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

高齢者の皆さんもそうなんですけどね、もう一つ、もう一つ加えてもらえれば、ここがですね、MRですとって、乗りかえなしでってなれば、伊万里が高校とかの通学圏にも十分入ってくると思うんですよね、武雄から。今よりもはるかに行きやすい環境になるんじゃないかなと思うんで、ぜひちょっと頭入れとっていただければなと思ってます。

〔市長「入れときます」〕

次に、教育についてです。これも皆さん、いろいろな質問とかぶっておるところがあるかと思えますけど、全国初に児童生徒全員にタブレットっていうことで、ニュースになっておりますけれども、その報道のあれからいけば26年の4月に小学校の小学生に、中学校には9月ということ導入ということになって上がっておりますけど、その中の記事からいけば、情報化社会を生きる子どもたちには、もう今からは不可欠なツールであると。情報活用力に加え、学力向上につながる知識や理解力、考える力の習得を狙うというところがございますけれども、まず、私なりにですね、タブレットを導入することによるメリット、デメリット。メリット、デメリットちゅうぎおかしかなですかね。

〔市長「大丈夫です」〕

自分なりにちょっと、ずーっと考えてみたわけですよ。子どもたち、さっき報道にあったように子どもたちの情報活用力の向上があるやろうと。障がいを持つ子どもたち、例えば発達障がいの子っていうのが、例えば人と接するのが苦手な子とかでも、タブレットを使うことによって、物すごく集中力を高めてやられている実績というのもあります、すでに。学校と家庭との連絡機能の充実ちゅうことも考えられるんじゃないかなと思うわけですよ。今、結構学校からお便りとかっていうて、ペーパーが回ってくることもあるんですけど、それももう、そのタブレットを使うことでできることなるっちゃないかなと。この前もありましたけど、学校のほうからいじめについてのアンケートとかっていうのがちょっと来るわけですよ。そのアンケートを子どもが結局学校から持ってくる。その子どもが学校から持ってくるアンケートを親にやればよかですけど、うちもですね、ちょっとずんだれておらあけんが、たまに忘れらあわけですよ。

ランドセルの中にずっと入ったまんまやったっていうような感じのとき結構あるとですよ。今回、それも私もらって、もう忘るっぎいかんけんと思って、その場でまた書いて、封して、また持たせてって。こういうことがですね、タブレットでできる機能というのが出てくるんじゃないかなと思ってます。

それと、この前、先日市長の答弁にもありましたけど、テスト等の採点業務のデータ化っていう、テストの点数がすべてデータになって、どういう状況にあるっていうのがこう、全体での見る部分っていうのができてくるのが簡単になるんじゃないかなと。

さらにはですね、動画機能を活用して、その授業の配信。これは、まあ撮ったのを家庭で見るっていうのも一つあるかもわかりませんし、その一つの、まあ逆のことを言えば、授業参観のごた形がでくつとやなかかなっていうともあると。

〔市長「そうです」〕

それと、これまたちょっと後からの話で出てきますけど、例えば不登校で学校行ききらんっていう子も、配信ができるっていうことのメリットとして、まあこういうことがいろいろ、まあ、ほかにもあると思いますよ。ICTにそんな詳しくない私ですが、考えてこういうのができるごとなるっちなないかなと。

ただこう、一方ですら、情報活用力の向上って、あまりにもこの——実際私でもあるとですよ。あまりにもこう、普段パソコンばかりいじくるぎ、いざ、こう何かを自分で書いたときに、あら漢字の出てこんっていうときのあるわけですよ。そんなときは携帯で打って変換して、ああこいこいこいこいって思いながら書いたりとか。私がですよ、(発言するものあり) ちょこちょこそういうことがあるとですよ。そいけん、読む、書く、話すといったその基本的な能力の欠如というのがある可能性もあるなど。そのコミュニケーション能力、あまりにもiPadに頼りすぎることによってのっていうことですけど、じゃあちょっと苦手だけど、ちょっと話をしてみようとかっていうことをしなくなる可能性もあるかもわからんなど。

まあ、これはもう答弁出たりしてましたけど、各家庭でのネット環境の差とか、操作能力の差とか、そういうのも出てくるかもわかりませんし、データで出てくるもんやっけんが、今までのアナログの採点と違って、あらここわからんところで間違うとるとかっていうところが、細々したところがわかるのかどうなのか、そこら辺があるとかかと、いうところがあります。

これが自分が考えた中での話ですから、どこまでが理解ができるものなのかどうかわかりませんが、一番やっぱそうやって気になるのは壊したり紛失したりした場合の責任で。それと初期導入と補償を含めたランニングコストというところですね、実は先日ですね、私知り合いに、ちょっと——割れたタブレットを持たんねって言うて、ありました。落としたりすると、こういうこともやっぱ考えられるわけですよ。これがじゃあどこに責任の所在



が出てくるかっていうところも当然考えとかんばいかんじゃないかなと思ってます。

答弁も求めていきたいと思いますが、これまでの答弁の中では機種やアプリケーションについては、ICT推進協議会で再諮問をしていくということでありましたけれども、スケジュール的にこれからの予定として、配布は4月、小学生には4月、中学生には9月というような配布スケジュールは出てたかと思いますが、ここら辺のスケジュール的な面も、あわせてちょっと答弁をお願いしたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

これは本来ならば、教育委員会が答えることが適切かもしれませんが、ICT推進協議会の答申等は私の名前でさせていただいておりますので、ちょっと私のほうから概略をちょっと御説明したいと思います。

スケジュール的には、もうそろそろ答申をいただくということになります。ただ、答申の内容はどういう内容かちょっとわかりませんが、そこで多分決め打ちにはならないと思うんですよね。例えばiPadにしないとか、アンドロイドのものにしないとか、ウィンドウズにしないっていう、多分決め打ちにはならないと思うんです。その中で実際、方向性を——ただしそうは言っても、機種、アプリケーションについての再諮問っていうのは、ここにも書いてありますけれども、それはお願いしておりますので、何らかの一定の具体的な方向性っていうのは出していただこうと思ってるんです。その方向性に基づいて、私どもは先に答弁をしたとおり、年内、もっと早い状況になるかもしれませんが、実際委員会、まあ代田先生も——教育監の代田先生、これ予算お認めいただくことが前提ですけれども、代田先生にも入っていただいて、教育委員会の中で実際決めていくということになります。これは今のところ、これは私見ですけども、これ教育委員会とも調整をしますけれども、今のところプロポーサルにしようと思っております。プロポーサルにしようと思っていて、その中で教育委員会が総合的判断をして、決めていくということになります。決まればそれに依じて4月までに、来年の4月までに逆算をします。ですので、まず学校の先生方々になれていただくということで、いろんな研修をするということになっていきますし、その間に、例えばアプリケーションをどうするかとか、さまざまな具体的な詰めがその間にあって、4月にはちゃんと始められるようにしていきたいなというふうに思っています。

もう一つ、ちょっとこれお詫びをしなきゃいけないのが、当初会見等で申し上げたように、小学生のアプリケーションに——あ、ごめんなさい。小学生のタブレットの配布については、来年の4月ということでこれはお約束をして、9月に中学生というふうにしてたんですけど、ちょっと間に合いそうにもありません、中学生については。これは、例えば補助のスキームが、今自民党政権で話をしていますけれども、補助のスキームが再来年から出てくるというこ

ともありますので、市民負担をなるべく減らす観点から、ちょっとこれは——こっちの、今自民党さんがおっしゃってるようなスキームにのったほうがいいんじゃないかなということなんで、ちょっと半年程度、ちょっと遅れる可能性があります。ですので、来年の9月じゃなくて、半年遅れて再来年の4月っていう可能性もありますので、これはちょっとその後に、私どもが発表した後に生じた事情変更になりますので、この際申し上げておきたいと思えます。いずれにしても、ちょっと財政負担は伴う話であって、市民負担はなるべく減らす。

それともう一つは、お約束というのもありますので、それはしっかり進めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたらですね、このICTの教育、まあちょっと将来的なビジョンとして、ちょっとまあ、伺っていききたいなと思っておるところですけど、ICTの導入についてもですね、やっぱり市民の方の中には、やっぱり賛否両論、両方あると思うんですよ。それはそれで十分必要なことだと思いますからあれですけど、ICTにどンドンどンドンその、特化は当然あるのかもわかりませんが、私の中での理想的なものといえばですね、従来のアナログ的な教育のプラスアルファでそのICTを活用するっていうのが一番、効果が高いんじゃないかなというところを、ちょっと見解を持ってるところであります。ちょっといろんな人がいますから、見解の違いは当然あると思うんですけど、これまでの教育にプラスさらにICTの教育のがのっかっていくっていうようなイメージがいいのかなって、ちょっと説明がちょっと上手じゃありませんからあれですけど、この将来的なビジョン、これからのICT教育について、そこら辺をちょっともう一回答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、僕はこういうことは考えてないですよ。アナログ的な教育にプラスアルファっていうふうになると、子どもの負担にもなるし学校の先生にも負担になりますので、もっと簡単に言えば、アナログの教育でなかなかできないことを、ICTが補うと。もうあくまでも、フェイスブックもね、アナログの補完でしかすぎないんですよ。やっぱり我々だってアナログじゃないですか。ゼロと1の人じゃないですよ。いろんな感情があって、いろんな思いがあるっていう意味では、我々は立派なアナログだと思うんですよ。それは教育も同じで、アナログが主体っていうのは読み書き、そろばんっていうのは、もう大前提なんですよ。しかし今の子どもたちが、じゃあそれで集中力とか持続力があるかっていったら、そこは足りない部分がやっぱりあるんですね。それを補うためにICTを補完的に入れるということで、

それを基づいてこれは本来の教育のあり方だと思うんですけども、生きる力とか、考える力とか、楽しく学ぶであるとか、本来の教育の目的に、もっとそぐうようにしていきたいと思います。ですので、そういう意味で僕らが、例えば小学校だったときとすると、なんか宿題にすごい負担感があったじゃないですか、負担感が。何で宿題せんばいかんとして。まあ上田議員は違うかもしれませんが、僕なんかはそう思ってたんですね。だから漢字書けて言われたときは、中日対巨人ってずっと書いて怒られたりとか——いうふうにして、あるいは私は立派な不登校でした。不登校でしたので、行きたくないねってずっと思いよったわけですよ、行ってませんでしたけど。そのときに、やっぱりこういう話がありましたけれども、タブレットを配布することによって、そういった子どもたちの負担感が少しでも減ることになればね、それはプラスアルファ、まあ、そういう意味ではプラスアルファだと思うんですよ。プラスアルファということだと合致してますので、何かそれに、何か付加するということについては、新たに何か追加してね、より大変になるっていうことは実は考えてないということは恐らく一緒だと思います。

それともう一つこれ大事なのは、もうこれが、我々は好むと好まざるにかかわらず、今、社会に出たときに、必ずこれは聞かれるんですよ。どれくらい——例えば、パソコンを使えるかとか、どれくらい、それを使うことによって情報収集能力があるのかっていうのは、我々の通常の試験でも聞くわけですよ。となると、もうこの道を行かないっていうことは、選択肢を閉ざすっていうことにもなりかねないんですよ。だから子どもたちが、この前の議会でも、一昨日かな、昨日かな、申しあげましたけれども、やっぱり飯が食えると、自立をすることからすると、それを逆算した場合には、これは小学校のときから入れとかなないと、もうすでに遅れてしまうと。これは松原先生から、あのICTの協議会の松原座長からも聡座長からも聞きましたけれども、すでにタイでは小学校1年からタブレットの配布が始まって、タブレットの授業が始まっているということを聞いています。ですのでこれが、そういう子どもたちと、実は競争して協調する時代っていうのが、もうグローバルな社会出てくるじゃないですか。そのときに英語とそういうタブレット等を使いこなすっていうのは、僕は早ければ早いほどいいと思ってるんですね、早ければ早いほどいいって。それを公教育でもちゃんとやっていくっていうのは、ある意味行政の、私は責任だと思ってるので、そういう意味も込めてタブレットっていうことを申しあげてますし、まず何よりも子どもたちが楽しく、やる気を持って学んでいただくと——学ばせるという環境をね、ぜひ整えてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

プラスアルファと補完的、まあそこら辺の、言葉のニュアンスの違いも当然あったかもわ

かりませんが、我が子がですね、やっぱり夜遅うまで、母親の携帯いじりようわけですたいね。もう、こいどんは、早う寝らんかこのって言って、やかましゅう言わんばごたあふうですたい。だけん、そういうとがね、あまりにもこう進んでいけば、ちょっとようなかって——ただ、うちの娘がですね、1番上ん子が、今高校生のおるとですけど、やっぱ簿記とか資格ば一生懸命といょうばってん、その中にやっぱりこのパソコンが入ってきとうわけですよ、必然的に。ただそこら辺は当然あるかなと思うですけど——どうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

夜中使いがすごい問題になってるんですよ。これ、朝日新聞だったか日経新聞だったかちょっと忘れちゃけれども、スマホへの依存っていうので、非常に心配だと。今度うちがタブレットを導入するときは、夜9時で自動的に電源が切れるように……（笑い声）それアプリケーションでできるんですよ。もうそういうふうにしようと思ってます。やっぱりね、親子の会話って絶対大事なんですよ。ですので8時59分をもって切れるような設計にしていきたいと、このように思ってます。

〔3番「なるほど」〕

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そういう機能があるんだったら、ぜひ、よかですね。それではちょっと次に入ります。ちょっとまあ、不登校のことについて、ちょっと触れたいなと思ってます。というのはもう結局はその不登校もですね、そのタブレットを活用すれば、いろんな対応もできるんじゃないかなというところがあるって話も一つはあります。ただし本当にですね、不登校で苦しんでる方っていうのがいらっしゃるわけですよ。そういう中で、ちょっと資料を探してみましたけど、これ県教委の出してる資料になるんですけど、ちょっと古かとしかなかったんですよ。平成8年から19年までの、ちょっとデータなんですけど、ちょっと古かですもんね。19年の単年度の分のデータになります、その不登校の理由とかですね。学校生活に起因がしてるとか、家庭生活起因とか、本人の問題にもとか、いろいろあってますけど、実際この武雄市における、その不登校児童の現状というか、今の武雄の状況を確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

不登校の子どもたちの現状でありますけれども、昨年、一昨年と最終的に40名の不登校

の子たちがおりました。その中で、年度末に改善して来れるようになったという子どもたちが10名、11名とおりましたので、最終的にやっぱり30名ぐらいの子どもたちがいたということでございます。これは年間30日という欠席の日数で区切って、統計をとっております。中にはずっと来れなかった子どもも、もちろんおりますし、ぼつぼつと休んだという子どももいるわけでございます。今年度、現在のところ、7月19日現在で、小学生が3名、中学生が13名という状況で、昨年度のこの時期と比べますと、若干減ってるかなという状況でございますが、40名、それ以前よりは、減ってはきたんですけども、本当に心痛める数字でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと私自身の経験を踏まえて言うのですね、僕は、小学校と高校のときに激しい不登校だったんですよ、ある学年のときにね。そのときに、何で行かんばいかんと、とかって言うのですね、ずっと言って、行かんばいかん、行かんばいかんとかって学校の先生とか親からわあわあ言われるわけですよ。そうすると子どもってますます行かなくなるんですよ。それで高校のときに一転して僕、実は行くようになったんですよ、しばらくしてから。次、行かんでよかって言われたですよ。うん、むしろ。それよか、お家にね、おって、明るい不登校になりなさいって、明るい不登校に。高校生のときにそう言われて、そのときに、やっぱりちょっと考えたすもんね。うん、そいけんがやっぱり自分でこう考えると。もちろん、ここに書いてありますように、学校生活に起因とか、家庭生活——本人の問題に起因っていったときに、ここは本人の問題に起因する場合になると思うんですね。しかも、その深刻な病気じゃなくて。そのときに、やっぱりね、持っていきかたっていうのは人それぞれだと思うんですよ。人それぞれだと思うんで、それは私自身の経験からするとね、なんか明るい不登校になりなさいって言われて、先生があれですもんね、来るのを待ってるって、いうこと言われたときに、はたと、私は思って。だから、勉強しろって言ってもしないじゃないですか。でも勉強するなって言ったら不安になってしまいますよね。ですので、そういう何かな、極端なことを言いましたけれども、そういう導き方っていうのも、やっぱりちょっとあるのかなっていうのを、教育長がうんうんとうなずいておられますので、多分伝わってると思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

えっとですね、そがん答弁されるぎんとですよ、（笑い声）ちょっとですね……

〔市長「明るい不登校」〕

うん、いや、不登校ですね、これも 19 年度のちょっとデータで古かとはすけど、やっぱり小学校からずっときていって、まあ中学になれば途端にやっぱり増えるんですよ。まあ、その明るい不登校のためについていうと、何か話のまたおかしゅうなごた気のすつとですけどね。

実際ですね、本当にもう、どがんでよかじやいもう、わからんっていう親御さんも、おんさつですよ。もう、どうしていいかわからんて。ただ、学校の先生と話をすれば、物すごくデリケートな部分だからっていうので、慎重に対応せんといかんっていうことでの話、当然それはそれで、それでわかるとはすけど、そういう子のためにもですね——まあそういう子は、もうとにかく、まあ1日——1日っていうのが、比重がちょっと大きくなってきますから、ぜひそういう対応をしていきたい。

ただ、学校に行ける 때가来るまでの間というところでですね、タブレットをうまく活用して、その学力向上というか、学力維持って言うんですか、そういうとにと思って活用も考えていかんといかんじゃなかかという質問ばしようかなと思ったばってん、明るい不登校と言われるぎんた、誰でん喜んでそっちばさるつき困るけんですね。ちょっとそこ（笑い声）——非常に難しゅうなったなと思いますけど、そこら辺、教育長どうですか。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市長さん、ちょっと実体験を踏まえた話でしたので、それにはなかなか及ばないわけですが、まあ、私どもが一番心配しますのはですね、いじめであったり暴力であったり、そういうことでちょっと学校行けないとかですね。あるいは授業がわかりにくいとか、それから、集団的なことに意欲的できないとかですね、そういうことがきっかけで、ちょっと行けないということであればですね、私どももやっぱり、毎日毎時間やっぱり気をつけて、一人一人に本当に目が届いているかっていう視線はですね、大事にしていけないといけないだろうというふうに思っております。その上でですね、やっぱり学習については、やっぱり保障していきたいわけですね。

先日、宮崎大学から小野先生という方来ていただいて、武雄中、北方中の先生たちが研修されたんですが、この先生の場合は、まあ3年生とか4年生のところですね、ちょっとどうもきっかけが多いんじゃないかというようなことですね、小中の先生方の連携も、まあ言われるわけですね。

そういうことを考えますとですね、タブレットで段階を追ってできるような学習についてはですね、自分のペースでして、そして何かのきっかけで、その交流につなげていくということは、もう十分考えられる方法だというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

**○3番（上田雄一君）〔登壇〕**

ありがとうございます。

そしたらですね、次に入ります。最後の質問になっていきますけど、まあ、これちょっと読ませていただき——現在武雄市においてはですね、平成16年度よりそれまでの3学期制を2学期制にされております。

平成25年度より、まあ今年度よりですけど、土曜日等の開校を実施しております。ただ、まあ、この2学期制にしる土曜日等の開校にしるですね、そもそもの目的は何やろかなと思って、こう考えても、これまでの答弁を踏まえても、授業時数の確保による学力向上ではないかなというところがございます。

まあ、ここ最近の議会を見てみるとですね、この2学期制を3学期制に戻してはどうかというような話がところどころ、出てきますけれども、まずですね、今の環境の中で対策も何もなくて、この2学期から3学期っていう方がいらっしゃいます。これがどっちがいいのかっていうのはちょっと抜きにして、3学期にすることは、何もせんでもそれ、でくっとかできないのか、それとも土曜日等で——この土曜日等の開校とかをしながらで、対策を打つ必要があるのか。まず、そこをちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

少しずれるかもわかりませんが、3学期制とですね土曜日等で、授業時数だけでいえば、ないというふうに思っております。

これまで申しましたようにですね、この土曜日の子どもたちの様子を見たときに、やっぱりこの大事な時期に、ぶらぶらして過ごしてる子も、やっぱりかなりいるわけですね。それから、放課後児童クラブで過ごす子どももおります。そういうことからですね、やっぱり、土曜日というのは本当に、全部こう、休んだほうがいいのかというのは、かなり全国的にも話題になってるところではありますですね。

それから、その2学期制の理由として、授業時数があつたのは間違いございません。今、今年度から、その土曜日等の授業を各学校で、小中学校、各校でやってもらって、8月までのところですね、小学校で平均19.3時間、中学校で18時間というのが、夏休みまでの時数をカウントしたときの数値でございます。それがもしできるようでありますとですね、これはまあ2学期制ではなくても、時数的には問題ないっていうことは、教育課程上も標準な授業時数は、カバーできるというふうに見ております。ただ、どうでしょうかね。今年の夏なんか、非常に暑かったわけですね、私もちょっと何校か見せてもらいましたが、けれども、この35度を超える状況の中で、子どもたちの夏休み、どの程度可能なのかなっていうのは、また今後、検証していかないといけないことだとも思っております。

いずれにしても、今の時点で本市でやってる土曜日等の授業をやりますとですね、3学期制に戻しても、授業時数としては確保できるというような方向が見えてきたかなと、現時点でですね、そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

それは、その授業時数のめどが見えてきたというのは、その土曜日等開校を含めてということですか。含めてということですね。じゃあ含めて、この土曜日等開校、今実質10日程度、教育長の答弁からいけば、きょうはちょっと使われませんでしたけど、これまでのここ数日の答弁の中には、試行してもらってるというところで答弁があったかと思いますが、それを10日程度の開校を入れれば3学期制も考えられる、授業時数は何とかめどは立つという位置づけでよかったですか。ちょっともう一回、そこを確認します。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

授業時数だけで考えますと、今おっしゃったようなことになる。ただ、さっき申したように、この暑さの中で登下校大丈夫かなという心配は、間違いなくいたします。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたらですね、まあ学期制を考えるのであれば、まあそこら辺も踏まえて考えていかなければいけないかなというところですね。

ではちょっと、その土曜日等の開校についてですけど、そもそもの、その土曜日開校のところで保護者に周知されたのは、教育委員会主催のこのアンケートが主だったかなと思うわけですね。ちょっとそのときのアンケートの結果をちょっと出しますが、「週5日制となって10年が経過しました。お子さんの土曜日は、主にどう過ごされておられますか」で回答を得るというようなアンケートですけど、一番多いのが54%で家庭、地域ですもんね。だから教育長は多分、ここの――要は、家庭でもちょっと時間をもてあましたりとか、そういうところを一番主眼に置いてかれてるのかなというところはあるんですけど、29%が社会体育、部活動等。この緑色が11%は習い事、学習塾等っていうふうになってまして、ここ、紫色が社会教育、公民館、地域行事というふうになって――これが2%ですね。それに放課後児童クラブが2%。

ちょっとここで不思議なのが、この家庭、地域っていうのが、これ、どがん意味ですかね。家庭はわかるとですよ。地域っていうのは、例えば子どもクラブ、そういうのを地域とか



——まあ、その地域でいろんなことをやられる。でもここ、見いぎんた公民館とか地域行事というところっけああわけですよ。それでこの地域っていうのは、これ何を指すのか、ちょっと先にまずこれを1点確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いわゆる家庭近くの自分の家の近くの地域で、子ども、自分たち同士で遊んでいるということですね。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

家庭、地域ってのは、そういう意味ですね。それで納得できました。

でですね、次の「土曜日、午前中開校についてどう考えられますか」のアンケートが、33%が現状のまま、12%が月1回の開校、月2回の開校が54%、無回答が1%という結果でありますけど、このアンケートを踏まえてじゃないと思うんですけど、まあ、実施されてるのが、土曜日等が、今、年間で10日程度となっております。となると、まあ、月1回を開校してないところでもありますけど、まあ、ざらっと見いぎ、月1回程度の開校になっとうわけですよ。こいがですね、このアンケートばとるときの保護者の感想ちゅうか、保護者の皆さんの感覚が、月1回、もう毎週何曜日学校になっていくとか、もうとにかく土曜日学校、ずっと学校になっていくんだというような感覚でのアンケートを記入した人がいっぱいおんさあわけですよ。

実際ですね、私の知り合いも結構な数で、月2回がよかと言う人が結構おんさあですね。確かにおんさあとですよ。確かにおんさあばってん、実際のところになれば、ぼつんぼつん休み——土曜日に学校に行かんばやったり、夏休み行ったりとかっていうふうになると。さまざまなんですけど、まずこの件について保護者の声を、教育委員会としてはどのように認識をされているのかを、ちょっとお伺いしたいなと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

出してもらっていいかな。（モニター使用）土曜日開校等の様子でございます。上がひまわり講座で、五、六年生の児童、保護者対象で県警からのインターネットの安全についての出前授業、つまり保護者の方と一緒にですね、勉強をする。下は平和集会、子どもたちだけになろうかと思えます。

東川登小では、先日、運動会があったわけですから、運動会の練習を上級生、下級生、

一緒になってやるとか、あるいは敬老会の方とともにですね、菊の苗植えをすると。西川登小学校でも親子で飛行機づくりとか料理づくりとかというような土曜日開校すべて、学習の時間とはしてないわけですね。

これは非常にまあ、夏休みの間では、学習だけ3時間したという学校もあります。何時間かしたという学校もですね。ただ土曜日開校のですね、今、関東の辺りであっている土曜日開校のもですね、一応、5日制の主旨はなくさないでと、そのままということ。つまり、保護者の方とか地域の方とかと、一緒に何かできるようなことはないかというような土曜日の開校が多いわけですね。そうしますと、月2回というのを先ほどのアンケート、したわけです。月4回はしなかったんですね。ただ、意見の中には月4回という希望もかなりあったのは事実です。まあ今やっている中で、月2回が限度かなというようなところでされてるところが多いわけですが、昨年度、山内中学校と北方中学校で6回ほどしていただきました。その辺りも踏まえましてですね、年間10日程度ではできるんじゃないかという、検討委員会、先生方こう集まってもらってしたところ。です。

ことし——今ちょっと途中でありますので、ちょっとまだ保護者の方の意見というのですね、集約できておりませんが、恐らく学校には届いてると思いますので、この後ですね、集約をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

さまざまな声がありますけど、一つですね、やっぱり一番多いのが、武雄市独自の取り組みは取り組みで、土曜日等開校——すみません、これ「等」抜けてますけど、土曜日等開校があつてるところですけど、まあ、さまざまな声の中の一番多いのはですね、これにやっぱ休むと欠席になるっていうのが、やっぱりどうしてもいろんな皆さん、ひっかかってくるみたいなんですよ。

まあ当然、社会体育、社会教育の子も当然いるかもわかりませんし、土日となれば——不幸事やったらですね、忌引きになって、まあ欠席にはならんと。でも土日とかの場合つてなると祝儀のほうもあるわけですよ。でも結婚式には行って学校を休んだら、それは欠席になるわけですよ。それをこの武雄市独自の取り組みの中では、まずそこはですね、試行してるっていうことであればなおさらちょっと、欠席扱いというのはどうなのかなというのも含めてですね、来年度武雄市として、この土曜日等開校はどう取り組んでいくものなのか、そこら辺をちょっと考えて——答弁をいただきたいなと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

文部科学省でも、この件については検討されてるようでありまして、秋にはですね、何らかの方針が出されるような話も聞いております。

ただそれはそれとしましてですね、一応、今の時点でちょっとまだ——夏休み後の検討委員会してませんので、この後になりますけれども、今年度御迷惑をおかけしたのは、決定が非常に遅かったということですね、社会体育等に御迷惑をおかけした点があったのは承知をしております。したがって、次年度——まあ、10日程度、今年度の程度でやるとしましてもですね、決定を早くして、そして事前に調整をしていただくようなですね、方向で進めたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これちょっと、大分県の豊後高田市の事例を、ちょっと御紹介して、ちょっと質問終わりたいと思いますけど、豊後高田市、これ、以前にも御紹介しましたけど、これ、昭和の町で有名なんですよ。昭和の町イコール教育の町っていう位置づけをされてるわけですよ。ここに私、県内の若手の議員さんたちと視察に行って勉強させていただいたんですけど、学びの21世紀塾っていう、いろんな取り組みをされてます。この中にはですね、やられてることの中には、武雄でももう実際やってるものもあるわけですよ。

まず寺子屋講座、幼児、小学生、中学生を対象に第1、第3、第5土曜日の午前中はそこに集まって、塾の、民間の塾の講師とかと連携をとったり、その地域の大学生と連携をして、こういうことをやられてると。ここですね、夏休み、冬休み、特別講座というのが長期休暇中の中3向けの講座。これは武雄でももう実際やってるわけですよ。これを私はどちらかというと、土曜日等開校のほうよりもですね、力を入れてほしい、どっちかちゅうぎ、私こっちに入れてほしいかと思うとですよ。私、ここの中3の子どもを持ってた経験がある親としては、物すごく助かったとですよ。高校受験前、だんだんだんだん高校受験に向かって、こう勉強せんばらんっていうような意識づけにもなったしですね。だからこういう——ここはですね、寺子屋昭和館ちゅうのは、小学校4年生、5年生、6年生向けの平日の夕方のお話ですけどね、これは放課後児童クラブと、ちょっと合体するけん、なかなかどうなのかなと思いますけど、できればぜひ、この土曜日の午前中、この寺子屋講座、夏休み、冬休み特別講座、こっちにぜひ力を入れていただきたいなというのを、ちょっとまあ、お願いをして、私の一般質問を終わりたいと思います。すみません、ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。